

活性化や道の駅研究披露

鳥山高など受賞報告会

那須鳥山

【那須鳥山】宇都宮市で今月上旬に開かれた「第14回学生&企業研究発表会」(大学コンソーシアムとちぎ主催)で入賞した市まちづくり研究会に参加する県内の大学や鳥山高による二つの研究の受賞報告会が22日、市役所鳥山庁舎で行われた。

足利工業大工学部4年鳥海航さん(23)らは、鉄道唱歌を活用した地域活性化

に関する研究で、準グランプリに当たる「関東経済産業局長賞」を受賞した。同大は2014年度から鳥山高と共同で、1930年に作られた鳥實線(現・JR鳥山線)の鉄道唱歌の解明や「地域資源回遊マップ」の作製などを行った。16年度にはワークショップなどを経て「現代版 鳥山線鉄道唱歌」を作成し、地域貢献や産学官と市民の連携などが評価された。

また宇都宮共和大生と鳥山高生は、豪華なキャンペーン「グランピング」の機能を併設した宿泊できる道の駅の構想について共同で研究。市内8カ所の候補地を選定し、豊かな自然や山あ



研究について報告する宇都宮共和大生や鳥山高生ら

の地域資源の活用などを検討し、「地域

経済貢献賞」を受賞した。報告会后、鳥海さんは、名誉ある賞を頂けた。受賞を機に那須鳥山という地域を

もっと知ってもらいたい」と話した。川俣純子市長は道の駅についても「整備するかどうかも含めて検討している段階。高校生らのアイデアも参考にしたい」と述べた。(柴田大輔)